



福鍼会だより

2022 年

4 月 26 日

発行 / 一般社団法人福島県鍼灸師会

(執筆者：総務部長 小沼慎介)

No. 146

令和 4 年度 定時会員総会が開催されました！



4 月 24 日（日）、令和 4 年度定時会員総会が開催されました。会場は郡山市駅前二丁目のビッグアイ・市民交流プラザ 7 階 大会議室 1・2 です。新型コロナウイルス感染症対策のため、大変広い会場をお借りして、密を避ける対策をしました（他にも手指消毒・換気などを行いました）。

総会開催当時、郡山市も感染者が増加しておりましたが、会場には約 20 名の会員が出席してくださいました。昨年同様、Zoom によるリモート参加もありました。会場・Zoom、共にご参加くださった会員の皆さま、ありがとうございました。

福島県鍼灸師会と福島県鍼灸師連盟の定時会員総会にご参加くださった皆さまのご協力があり、スムーズに報告と審議が進行し、無事に終わられたことをここでご報告させていただきます。今年度も本会の会務推進にご理解とご協力をお願いいたします。

総会を終え、事務局として思うことがあります。事前に発送していた出欠ハガキの回答率は8割を超え、昨年よりは微増したものの、2割の会員からは今年も回答がありませんでした。事務局を担当する者として、回答率 100% にならないことがとても残念でなりません。回答をされなかった会員の皆さま、回答しなかった（できなかった）理由はそれぞれかと思いますが、自分には関係ないことと片付けずに来年は会員の務めを果たしていただけたらと願います。会員の中には回答期限を過ぎてしまったことで速達でハガキを送付してくださった方もいたほどです。私ひとり回答しなくても大丈夫でしょうか？ という考えは無くしていただけたら幸いです。

令和4年度 春季学術講習会が開催されました！



定時会員総会が終わり、午後からは同会場にて令和4年度春季学術講習会が開催されました。

前半は『会津医療センターでの鍼灸研修について』と題し、福島県立医科大学会津医療センター 後期研修生 津田恭輔先生が講師を務められました。

会津医療センターの卒後研修は5年間あり、最初の2年を前期、残りの3年を後期としています。津田先生は後期研修生ということで現在、実践応用を学ぶ中で研究にも従事されているようです。

鍼灸の卒後研修には漠然としたイメージしか持っていませんでしたが、津田先生のご講演を拝聴し、センター内の全25科を1年間かけて研修すること、鍼灸と現代医学を結びつける理解を深めること、一人で外来・入院患者さんを担当することなど、非常に整った環境によって学と術を着実に積み重ねていくカリキュラムであることを知ることができました。

後半は福島県立医科大学会津医療センター附属研究所 教授 鈴木雅雄先生を講師に迎え、『福島から発信する鍼灸のエビデンス』を拝聴しました。

これまで鈴木先生のご講演は何度も拝聴してきましたが、生い立ちや鍼灸師を目指すキッカケまでを聴けたのは今回が初めてで、更に親近感が増したように感じました。



昨年の夏季学術講習会も大変アカデミックな内容でしたが、今回も豊富なデータをたくさんご

準備いただき、その情報量に圧倒されながら脳に汗をかきつつ喰らいついていく、そんな講演でした。個人的には鈴木先生が日常診療で行っている手技の動画が多く、撚鍼や雀啄の様子が分かり、とても参考になりました。



講演終了後、昨年12月1付で漢方医学講座と漢方医学研究所の教授に昇進された鈴木先生へ、ささやかながら花束を贈呈させていただきました。おちゃめな表情と共にしっかりとカメラ視線をいただき、さきほどまで熱く講演されていた先生とのギャップに“鈴木

雅雄ファン”が多いことも頷けます。

鍼灸師が公立大学医学部の教授に就任されることは国内初の快挙です。ここへ至るまでの道程を考えると鍼灸という世界に途方もない努力と情熱を注いできたからこそであり、そして必然の結果だと思えます。

偶然にも小沼は鈴木先生と同じ年になります。立場や環境の差はあれど、自分は自分として、目の前の患者さんに最良の鍼灸施術を提供していきたいと、改めてその念を強くした日でした。